研究・調査報告書

報告書番号	担当
３７２	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Drinking context and drinking problems among black, white, and Hispanic men and women in the 1984, 1995, and 2005 U.S. National Alcohol Surveys.

黒人、白人、ヒスパニック系男女の飲酒環境と飲酒の問題；1984、1995、2005 年の米国 National Alcohol Surveys(国立アルコール調査)より

執筆者

Nyaronga D, Greenfield TK, McDaniel PA.

掲載誌（番号又は発行年月日）

J Stud Alcohol Drugs. 2009 Jan;70(1):16-26.

キーワード

白人、黒人、ヒスパニック系、National Alcohol Surveys、飲酒状況

要　旨

目的：

この研究の目的は、異なる性と人種の集団（白人、黒人、ヒスパニック系の男性と女性）の好む飲酒状況を調査することである。そのために、こうしたグループが大部分の飲酒をどこで、また、どのような状況で行うことがある特定の飲酒関連の結果と関係しているかを調べた。

方法：

1984、1995、2005 年の米国 National Alcohol Surveys(国立アルコール調査)のデータを用いて調査した。現在飲酒している者の中で、多量飲酒を 6 つの状況（レストラン、バー、他のパーティ、自宅で静かな夕方を過ごす時、友人を自宅に立ち寄らせた時、公共の場所をぶらぶらする時）に分けてクラスター分析を行い、それぞれの民族と飲酒状況の好みでサブグループにわけ、それにより個人を分類した。

結果：

6 つのサブグループの各々の中で、3 つの非常に類似した飲酒状況と好みを持つ集団を特定した；(1) バーでの飲酒+αのグループ（バーで大部分の飲酒をし、さらに他の場所でも多量に飲酒）、(2)家グループ（自宅で大部分の飲酒をするが、他の場所でもかなり飲酒）、(3)軽量飲酒グループ（静かに自宅で飲む量はほとんどなく、他の状況でも残りの 2 つの集団より飲酒量は少ない）。

結果：

いくつかの民族―性別グループでは　飲酒状況の好みを割当てることで、一般的な飲酒パターンを超えて、飲酒に関連した問題を予測することができた。

たとえば、どのグループにおいても、軽量飲酒グループに比べた、バーでの飲酒+αグループは、飲酒量や深酒の頻度、年齢、調査の行われた年を考慮しても、口論やけんかや飲酒運転のリスクがより大きかった。

結論：　個人の好む飲酒状況を調べることは全体としての危険な飲酒パターンの増加やその防止の研究に対し、重要な情報提供となるかもしれない。